

令和 6 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 15 日実施)	総合評価(3 月 2 6 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①SSH 事業を計画 実施し、探究的な 学習や活動を通し て様々な課題を解 決し、社会に貢献 しようとする強い 意志を持った生徒 を育てる。 ②国内外での多様な 関わりの中で、情 報活用能力、問題 発見能力、論理的 思考力等の資質・ 能力を向上させる ことにより視野の 広い生徒を育て る。	①SSH 指定校とし て、生徒に身に付 けさせたい 8 つの 資質・能力(情報 活用能力/論理的 思考力/問題発見 ・解決能力/課題 設定力/課題解決 構想力/協働解決 力/国際通用力/倫 理観)の向上、。に全職員で 取り組む。 ②左記の資質・能力 を育成する学校行 事計画や生徒会活 動に 取 り 組 む。	①SSHⅡ期の申請に向 け、共創・探究科を含む すべての教科において、 左記の資質・能力の向 上を図るために、「単元 の指導と評価の計画」 の設計及び改善に向け た授業実践を組織的に 行う。 ②行事や生徒会活動にお いて、生徒が主体となっ て組織的な運営を行 い資質・能力を向上さ せる支援を行い、教科 外活動の充実を図る。	①生徒による授業評価 や SSHに関する アンケート調査、アセ スメント等の結果から、 資質・能力の向上を見 取ることができたか。 ②「魅力と特色づくり アンケート」結果で、 「充実した教科外活 動ができた」との回 答が 90%を超えたか。	①生徒による授業評価 において、項目3「単 元の学習の中で、課題 について自分の考えを まとめたり、解決方法 について考える場面が ある。」の 最高評価 の回答率が全体の 47.4% であった。 ・生徒に身につけさせ たい資質・能力につい て、経年で見取ったと ころ、特に、「課題解決 構想力」について、4 段階のうち最高評価が 1年 19.5%、2年 47.0% 、3年 79.4%と大きく 向上した。 ②「充実した教科外活 動ができた」に「当て はまる・どちらかとい うと当てはまる」と回 答した生徒は 94%で 目標を達成した。	①生徒による授業評価 は、最高段階の評価4 を 50%以上を上回る ことを目指し、年度当 初から職員研修等で全 体の意識づけと、具 体的な取組事例の共有 を図る。 ・資質・能力については 、次年度以降の SSH 事業の取組に伴い、各 教科で資質・能力を測 定するルーブリックの 作成、実施、改善に努 める。 ②左記結果のうち「当 てはまる」66%、「ど ちらかという当てはま る」28%である。当 てはまると回答する 生徒が増えるよう、 各行事での事後アン ケートの分析を行い、 改善を図る。	①生徒による授業評価 において、一定の成果 がみられるが、授業 だけでなく、考えられ るテスト問題を作成 するなど、工夫が必要 。 ②現在の取組をさら に確実にし、満足度 を高めてほしい	・生徒の授業評価 アンケートで、課題 に関する項目について 情報共有し、教員の 課題認識や委員の助 言から課題を把握し 、改善策のヒントを 得た。 ・授業において本質 的な「問い」を仕掛 け、教員と生徒が授 業のねらいを共有し 、学校の存在意義を 感じられる授業を構 築するために、組織 的に協働して取り組 む必要がある。	
2	生徒指導・支援	①心身を健やかに 保ち、自己理解及び 他者理解ができる 生徒を育てる。 ②部活動の活性化を 通して責任感や連 帯感の意識を涵養 する。	①・生徒の悩みや困 っていることを積極 的に把握し、解決に 向けて、外部機関等 の連携を行い、支援 の充実を図る。 ・生活規律を確立さ せる指導を行う。 ②部活動を通して主 体的に行動できる 生徒の育成を支援 する。	①・「かながわサポ ートドック」等の取 組や SC・SSW との 連携により、効果的 な支援を行う。 ・全校集会や HR 等 において登下校時の 自転車や公共交通機 関乗車に係るマナ ー、挨拶励行など について生徒に考 えさせる指導を行 う。 ②部長会を定期的 に開催し、生徒の 主体的な活動を支 援する。	①・サポートドック 等の取組を通じて、 SCやSSWと連携し 効果的に支援する ことができたか。 ・生徒の自律的態 度が定着し、近隣 住民等の外部評価 が向上したか。 ②部長会での決定 について、生徒が 実践し、主体的な 活動ができたか。	①・かながわ子ども サポートドックを、 3回実施した、問題 が表面化していない 生徒の早期発見に つながった。 ・ケース会議を1年 生5件、2年生3件 、3年生4件実施 した。 ・自転車事故件数 は8件(昨年度 10 件)大きな負傷は ない。 ・自転車苦情件数 は年間 11 件(後 期は減少) ・生徒指導案件 では、スマートフォ ンの不適切な使用 、生徒間のトラブル にかかるとのものが あった。 ・挨拶励行は浸透 しており、来校者 からの評価が高い。 ②部長会を4回 行い、活動環境の 整備や活動時間の 管理を行った。	①・担任等と生徒 の面談時間と場所 の確保が必要であ る。 ・引き続き、自転 車乗車マナー、 SNS使用上のモ ラル向上について 、HR等を通じて 指導していく必要 がある。 ・スマートフォ ンの適正な使用 について啓発を 繰り返す必要があ る。 ・挨拶励行を推 進する。 ②活動場所の整 備ができていない ことや、下校時間 を超過するなどの 課題が残っている 。代表者1名だけ でなく、2名を招 集するなどして、 主体性だけでなく 継続的な活動を 促す必要がある。	①サポートドック や教育相談におい て、SC、SSW と 連携することによ り、効果的な支援 ができている。 ・場所の確保には 校舎新築が必要 である。 ②自律的な活動 と継承を促す具 体的な工夫が必要 。	・サポートドック 等を活用して効果 的な支援ができた 。今後も早期発見 、早期対応に取 り組む必要がある 。 ・支援学校のセン ター的機能を活用 し支援の充実を 図ることができ た。 ・部長会、生徒会 執行委員等への 自律的活動を促 す問いかけと、 場の設定を充実 させる。	

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 15 日実施)	総合評価(3 月 2 6 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①より高いレベルの進路実現に向け、持続的に力を尽くすことのできる生徒を育てる。 ②何事にも果敢に挑戦する態度を育み、社会をけん引することのできる、未来を拓くリーダーを育てる。	①生徒の学習状況を細かに把握するとともに、必要な情報を適宜提供し、最後まで諦めさせない進路指導を貫き、生徒の希望の実現を支援する。	①生徒が進路の実現に向けて「振り返り」を行い、「見通し」をもって学びを進めていくように支援し、データを示して前向きに取り組む助言を行う。	①進路通信や進路講演会及び面談において、最新の必要な情報を提供できたか。	・進路行事、進路相談、面談等を通して、また classroom を活用して、最新の情報を提供し、きめ細かな指導ができた。	・高い志を持たせ、3年間を通して、進路行事や進路相談、面談等を通して、進路実現に向けて意識付けをより行う必要がある。	・きめ細かな指導がなされている。 ・高い希望を持たせチャレンジする気持ちの醸成をしていただきたい。 ・生徒に自己肯定感を持たせ、進路実現に向けて立ち向かう気持ちを持たせてほしい。	・生徒保護者の進路についての志向について情報共有することができた。	・同窓会、地域企業との連携など、キャリア形成の端緒となる場の設定をする。
4	地域等との協働	①地域社会と積極的に関わり、社会と学校が連携し、安心安全な環境づくりに取り組む。	①地域社会の資源を活用した教育活動の充実、及び地域活性化行事への参画支援を図る。	①キャリア支援において、地域社会の資源を活用した取組、及び地域活性化行事への取組を支援する。	①同窓会、PTA を含め、地域社会の資源を活用し、生徒の主体性を育む取組ができたか。	①11 月 12 日に防災教室を開催し地域の方の参加が 20 名あった。 ・生徒会組織を活用した地域への働きかけを強化した。 ・スタディアシスト、公民館主催の書道教室が好評であった。	①地域との連携をどのように広げてゆくかが課題である。 ・地域からの要望を聞き取れる体制を検討する必要がある。	①生徒と地域住民間で顔の見える交流が望まれる。生徒が学校の魅力を発信していくとよい。	・一定の交流活動はあるが、地域住民と生徒が直に交流する場がさらに望まれる。	・自治会活動との連携の場を設けることや市内イベントへの参加を増やす。
5	学校管理 学校運営	①教育公務員としての高い倫理観を保持し、健全な職場環境を作り、事故不祥事防止に努める ②すべての教員が学校教育目標を共有し達成に向けて協働して取り組む学校文化を継承する ③学校運営協議会をいかした学校運営を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。	①リスクマネジメントを強化するとともに、ワークライフバランスの推進に向けて、業務の精選・効率化を図る。 ③ホームページ等で本校の特色、教育活動や成果等の魅力を発信する広報活動を充実させる。	①・不祥事ゼロプログラムを遂行する。 ・業務の精選と ICT の活用による校務の効率化を推進する。 ③小中学校等地域への情報発信を積極的に行う。	①不祥事防止研修を計画的に実施できたか。業務の効率化を図ることができたか。 ③学校説明会や学校行事の情報をホームページ等で逐次発信することができたか。	① 企画会議毎に、教育委員会作成の啓発資料を用い、不祥事防止会議を行った。その後、各グループで研修を継続的に行った。不祥事ゼロを実現。 ③ホームページや SNS(X)を通じて、学校説明会や学校行事についての情報を効果的に発信した。X の更新頻度をあげ、様々な情報を発信した。これらにより志願者増の効果が見られた。保護者からも好評であった。	① 各グループでの研修で出た意見等を全体で共有し、組織として不祥事防止について取り組む意識を高める必要がある。 ③学校の情報をホームページ等により、伝わりやすさを工夫したうえで広報する。地域でのボランティア活動等を通して小中学生との交流を持つ機会を増やすよう検討する。	①小グループでの研修は効果的であり、継続するとよい。 ②学校目標の共有について深化が望まれる。 ③広報について一定の効果があつたが、生徒が直に小中学生に関わる場をつくることにも力点を置くとよい。	①リスクマネジメントが適切に行われている。 ③広報活動が充実し、成果も見られる。生徒と小中学校生との交流の場の拡充が望まれる。	・教員の長時間勤務の是正に向けて、個々の意識改革を実現する。